

業平谷なりひらだに

〔土人云、安祥寺あんしやうじの北にあり。今昔物語云、右近中将在原業平ありはらなりひらといふ人、ある人の娘に容顔艶にして世に知られたるあり、心をつくして密に盗出してけり。其を忽に隠すべき所のなかりければ、思ひ縊て北山科やましなの辺に旧き山荘の荒て人も住ぬがありけるに、其家の内に大なるあぜ倉あり、此内に娘を具して将行て臥たりける程に。俄に雷電霹靂して惶ければ、中将太刀を抜て女をば後の方に押遣て起てひらめかしける程に、雷も漸く鳴止夜も■ぬ〕

奴茶店やつこぢや

〔天津街道おほつ瀋谷越しるたにこえの別れ路北側にあり〕

〔此家の家先に片岡丑兵衛かたをかうしといふ者あり、勇猛の奴、殊には射術の達人なり。これより八町許北に閑居す。其頃は諸国の兵乱にて街道も往来の人稀なり、其虚に乗じて盜賊こ、かしこに起り、旅人を悩ます事数しらず、丑兵衛見るにしのびず、弓箭を帯しかの盜人等を討亡し、人家もなかりければ此所に茶店を建て、表には兵器をかざり、つねに弓矢を携て山中の間旅人を送り迎ふ。其遺風今にありて武器を店にいだし、片岡かたをかの家名相続す。後世片岡流かたをかの射術を学ぶ者は今に至りても其由縁を慕ひ訪来るといふ〕

地藏寺ぢいじ

〔山科竹ヶ鼻やましなだけ はなにあり。禅宗にして、開基は鐘山曉しやうざんげふ禪師。中興は播州網干龍門寺ばんしうあほしりようもんじの盤珪和尚ばんけいなり、其芳徳世の

知る所なり、元禄年中に寂す、諡号ふつちくわうさい仏智曠濟禪師〕

本尊地蔵尊〔弘法大師こうぼうだいしの作、立像三尺。南の脇壇には足利尊氏公あしかたかうぢの影を安置す〕

護国寺ごこくじ〔同所南側にあり、法華宗にして、開基は日勇上人にちゆうなり。京師妙伝きやうしに属す、一派の学校なり〕

阿弥陀堂あみだだう〔同所藪下北方にあり。本尊阿弥陀仏、行基ぎやうきの作、坐像八尺。此所より二町北に三昧あり、其葬所の本師堂にして開基は行基ぎやうきなり〕